

学校保健委員会だより

11月17日(火)に、第18回小須戸地区学校保健委員会が開催されました。各校園の校医・薬剤師の先生方、小須戸地区担当保健師、PTA代表、各校園の管理職、栄養教諭、養護教諭が参加しました。また、新津南高校より、校長先生と養護助教諭にもお越しいただき、新鮮な意見をたくさんいただきました。

今回は、今年度の定期健康診断結果の振り返りと各校が取り組んでいる感染症対策について協議しました。



1. 定期健康診断の結果から

【幼稚園・保育園】

〈歯科〉年度ごとの変動はあるが、一人平均う歯数、有病者率ともに減少傾向

【小学校・中学校】

〈肥満〉男子の肥満の割合が高い

〈視力〉視力低下者の割合が高い

〈歯科〉一人平均要観察歯(CO歯)数…小学生>中学生

一人平均う歯数…小学校<中学校

歯肉炎…小学校高学年で増加傾向

う歯へと悪化が懸念

〈視力の低下について〉

- ・スマートフォンやタブレット、PCやゲーム機器等が普及してきた。子どもたちも使用する機会が急激に増えたことが、視力低下につながっているのではないかな。
- ・GIGAスクールが始まり、学校でもタブレットを活用した学習が増えてくる。学校でも使用時の姿勢や視力への影響について、きちんと指導をしていく必要がある。
- ・子どもは保護者のメディアの使い方をしている。子どもだけではなく、保護者の理解、家庭での利用ルールを設ける等の対策が必要だ。

〈肥満について〉

- ・臨時休校や外出自粛、さらにはメディアの利用時間の増加が、運動量の減少になっているのでは？
- ・給食の残量をみると、子どもたちの食の好みが見えてくる。好きな物だけ食べていては、栄養バランスも偏り肥満を招く。

〈歯科について〉

- ・小学校高学年の歯肉炎増加は心配である。大人の手が離れてしまいやすいが、家庭でも声かけをして欲しい。
- ・フッ化物洗口の効果を正しく得るためにも歯みがきが大切である。
- ・高校生では昼食後の歯みがきは個人に任せている。実際に、みがいている生徒は少ない。高校でも、歯みがきの大切さを学ぶ機会が必要である。

運動や食生活、メディアの利用や歯みがき等の基本的な生活習慣の定着が大切！
基本的な生活習慣の定着に向けて、学校と家庭と地域が協力していこう！

2. 感染症対策の取り組みから

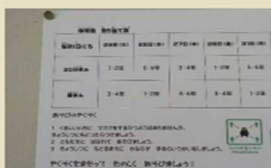
学校医・学校歯科医・学校薬剤師の指導のもと小・中学校の児童生徒と教職員が取り組んだ感染症対策を共有しました。

注意喚起のポスター作成や、
「元気・安心メッセージ」に取り組みました。

【学校生活】



給食では前を向いて静かに食べたり、
廊下に読書スペースを設けたりしました。



【児童生徒の活動】



- ・大人も子どもも、手洗い、うがい、マスクは習慣になってきている。
- ・学校でも3密の回避と学習活動を両立できるように工夫している。
(注意喚起ポスターの掲示や、学校行事の実施の工夫、教室の環境整備など)
- ・これからの季節は、新型コロナウイルスだけではなくインフルエンザにも注意が必要だ。



今後も各園・校の工夫を共有していこう！
学校医・学校歯科医・学校薬剤師との連携を深め、子どもの安全を守ろう！

3. 歯科医師・薬剤師の先生方・地区担当保健師さんより

【学校歯科医】

タブレット端末の使い方について、使うときの姿勢や視力への影響等教えるよい機会である。

特に、姿勢は呼吸や歯並びにも影響する。保護者にも周知をしてほしい。

【学校薬剤師】

家庭で使っている消毒液（アルコール、次亜塩素酸ナトリウム）の濃度について、有効な濃度であるか確認してほしい。

新型コロナウイルスを地域へ持ちこまないよう注意しなければならない。

【地区担当保健師】

特定健診の結果を見ると、小須戸地区は血糖値の高い人が多い。また食後に間食をする人が多く、運動をする人が少ない。そのような特徴が子どもや、子どもの将来の健康へ影響していくのかもしれない。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、社会全体の健康への関心が高まった1年となりました。今回の学校保健委員会でも、望ましい生活習慣や、手洗いなどの基本的な感染予防が、健康を保つ上で重要であることを改めて確認できました。各校園、家庭、関係機関と協力しながら、今後も子どもたちの健康づくりに取り組んでいきましょう。

小須戸の子どもたちの健やかな成長を願って…